

「教育の町」宣言30周年記念

特別展図録

しゅく さく い せき 出作遺跡とそのマツリ

アーチー・マツリゴト
—古墳時代松山平野の祭祀と政治—



期 間：1994年11月20日～12月4日

会 場：愛媛県 松前総合文化センター

主 催：愛媛県 松前町教育委員会

目 次

ごあいさつ	1
プロローグ	[谷若] 3
I. 出作遺跡のマツリ	4
1. 祭祀の場所	[谷若] 4
2. 祭祀の道具	[] 8
3. 祭祀の構造と性格	[] 17
II. 伊予地域の王たち	18
1. 「伊予グループ」の系譜	[谷若] 18
2. 王と渡来系集団	[] 20
III. 松山平野の祭祀遺跡	21
1. 福音寺の集落と祭祀	[山之内] 21
2. 辻町遺跡の祭祀	[梅木] 23
3. 集落内祭祀の盛行	[] 24
エピローグ	[谷若] 25
*特論 A. 出作遺跡の祭祀と その史的意義	[畠山] 26
*特論 B. 出作遺跡における 鍛冶と祭祀	[村上] 28
*特論 C. 出作遺跡の 非陶邑系須恵器	[宍戸] 30
*特論 D. 出作遺跡出土鉄器の 金属学的調査	[大前] 34
特別展出品リスト	[大前] 36
展示協力者	[] 39
展示関係者	[] 39
出作遺跡関連文献	[谷若] 39

凡 例

1. 本図録は1994年11月20日～12月4日の間に開催する特別展『出作遺跡とそのマツリ』－古墳時代松山平野の祭祀と政治－の展示図録である。
2. 本図録は、展示構成とほぼ合致しているが、展示資料のすべてを解説してはいない。
3. 本図録には、展示期間中に開催した三回の記念講演の要旨を特論 A～C として掲載し、出作遺跡出土鉄器の分析結果を特論 D として掲載した。
*特論 A. 11月20日(金)…梶山林継 先生(国際大学)
*特論 B. 11月23日(月)…村上恭通 先生(愛媛大学)
*特論 C. 11月27日(金)…定森秀夫 先生(京都市文化博物館)
*特論 D. ……大澤正己 先生(ひたら研究会)
4. 展示は松前町文化財保護審議会委員の方々の協力を得て実施し、岡田敏彦(愛媛県埋蔵文化財調査センター主査)がこれを総括した。
5. 展示に際しては、多くの方々に資料の提供をはじめ、ご協力を頂いた。卷末にご芳名を記してお礼申し上げます。
6. 本図録の特論以外の図・写真については、村上恭通(愛媛大学)・野口光比古(日本考古学会会員)・真鍋昭文(愛媛県埋蔵文化財調査センター)・大西朋子(松山市埋蔵文化財センター)・早瀬辰郎・西井上剛資(眞剣)・谷若倫郎(愛媛県埋蔵文化財調査センター)のほか、関係機関からも数多くの提供を得た。
7. 本図録の特論以外の執筆は、谷若倫郎・梅木謙一(松山市埋蔵文化財センター)・山之内志郎(松山市考古学部)・大政哲志(松前町教育委員会)が分担し、文責は目次に明記した。
8. 本図録の編集は谷若が担当した。

表紙解説

西の海に垂れ込めた雷雲と、そこから放たれる電光は、神々の降臨する姿(カミナリ)であると同時に、新時代到来の瞬間を象徴している。(谷若)

ごあいさつ

眼前に伊予灘の開ける松山平野は、古くから大陸や朝鮮半島の多くの優れた文物が招来された西部瀬戸内の拠点地域がありました。

論より、我が松前町におきましても愛媛県最古相の弥生時代の有柄式磨製石剣が出土するなどは、その証拠のひとつであります。

今回の特別展では、松前町に所在する西日本を代表する古墳時代の祭祀遺跡である出作遺跡をはじめ、松山平野をとりまく関連資料を中心に紹介し、それらをとおして、現在、我々が生きるこの地に刻まれた古代史の一風景を垣間みて頂きたいと思います。

この特別展によって、埋蔵文化財に対する一層の关心が深まり、また郷土の歴史をより親しみをもって知って頂くことにつながれば幸いです。

おわりに、今回の特別展の趣旨にご理解を頂き、貴重な資料を快くご提供いただきました皆様ならびにご協力を頂いた関係者の方々に厚くお礼申し上げます。

1994年11月20日

愛媛県伊予郡松前町
町長 住田広行

撮影:山川

2 松前町の位置 (人工衛星写真)

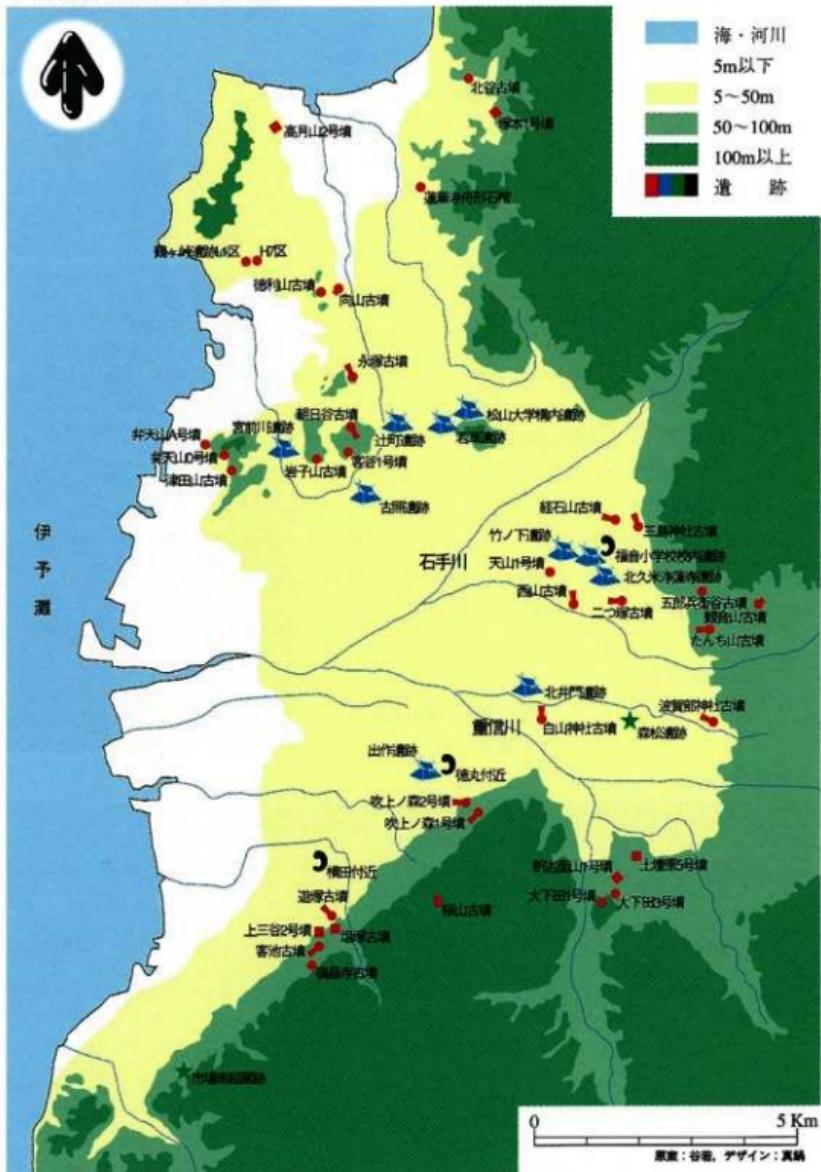


1 有柄式磨製石剣 (出作宝剣田遺跡出土)



撮影:山川

3 古墳時代松山平野の主要遺跡



プロlogue

八百万の神々

古代の日本には「八百万の神」がいたと言われる。祭祀遺跡は、山・峠・巨石・巨木・湖沼・河川・海・島などに残されており、神々はそれぞれの場所で、異なった神威を發揮していたようである。

渴水と祭祀

1994年夏。松山平野は記録的な猛暑と渴水に見舞われた。もし1,500年前(古墳時代中期)に、同様の事態が発生したとして、当時の人々はいかに対応したであろう。

祭祀の実修である。水不足による農作物の不作は、民衆の存亡に関わる重大な危機であり、集団の王たちは、水に祈り豊作を願う祭祀を挙行したのであった。

祭祀遺跡とは、古代の人々の切実な願いが込められた、神聖な空間なのである。

4 デフォルメされた「三種の神器」



大変革の時代の祭祀と政治

このように祭祀(神マツリ)は、当時の民衆の生活に密着すると同時に、その王たちの最も重要な政治的手段のひとつであった。これが現在でも「政治」を「マツリゴト」と呼ぶ所以である。

今回の特別展で取り扱う古墳時代中期(5世紀)とは、いわゆる「倭の五王」たちが、中国をはじめ朝鮮半島と頻繁に交渉した「積極外交の時代」であった。その結果、製陶(埴輪の駕籠・鍛冶(鐵製工具の普及))・金工などの新技術をはじめ、乗馬の風習やカマド(厨房の制など)多くの文物がもたらされ、社会は大きく変化し、飛躍的な発展を遂げた。

ここでは、当時の文化・社会を凝縮する祭祀遺跡のあり方から、古代松山平野における王と民衆の生活の一端を探ることとしたい。

I 出作遺跡のマツリ

1. 祭祀の場所……………伊予郡松前町大字出作

a. 立 地

出作遺跡は、旧重信川沿いの東西に長い氾濫原(淀原=東西、0m×南北、3m)に営まれた古墳時代中期の大規模な祭祀遺跡である。

遺跡は圃場整備事業に先立って、1977年12月～78年1月に一部(100m²)が発掘され、大小の祭祀遺構・流路2・竪穴式住居1・焚火跡などが検出された。

b. 流 路

調査区の中央を、東から西に併走する2条の流路(幅5m、深5cm)は、北に向かってほぼ直角に屈曲している。両流路とも埋土の観察から、数回にわたる緩やかな流れの痕跡が確認されている。

この流路を巡っては、自然流路か?あるいは人工溝か?それぞれ見解が分かれるところである。なお仮に人工溝であるとすれば、集落を区画する溝の可能性が強い。

5 出作遺跡 SX01



c. 主要な祭祀遺構

SX01 主軸が北東方向を指す大規模(全長10m×幅5m)な祭祀遺構である。出土遺物は多数の土師器や須恵器(側面系土器を含む)をはじめ、多量の石製模造品(勾玉・削形円板白玉・切妻形)や豊富な鉄器(農工具・道具・素材・鐵冶資料)のほか、土製品(筋轆車・製塙土器)や砥石など、膨大な遺物で構成される。

なお SX01の遺物は数群に分けられ、一時期に一括して供献されたのではなく、ある程度の時間幅をもって継続的に営まれたと考えられる。

SX02 南側流路に沿って東西の帯状(幅2m×幅5m)に検出した。完形の須恵器数点以外は、土師器や須恵器の破片と、若干の石製模造品や鉄器で構成される。

SX02の出土状況は、あたかも意図的に破碎したかのようであり、ほかの祭祀遺構とは明らかに異なっている。

SX03 流路西コーナーの北側で検出した。主軸は南北方向を指し、やや小規模(長3m×幅1.5m)であるが、遺物の集中密度は高い。

遺物は土師器(約2,000個体)と、若干の勾玉・石製模造品・鉄器で構成される。

d. 小規模な祭祀遺構

数点の土師器や須恵器で構成される小規模な祭祀遺構が、流路を挟んであたかも主要祭祀遺構を取り囲むように分布している。

e. 住居跡

方形(←延4m前後)の竪穴式住居(SB01)である。屋内から焼土・炭化物が多量に出土することから火災住居と思われる。

f. 焚火跡

SX01とSX03の間から多数の焚火跡が発見された。焚火跡は円ないし梢円形の平らな範囲(直径50cm前後)で、遺物は出土しない。

これら焚火跡は、祭祀遺構と関係があるのか?それとも鍛冶遺構の一部なのか?など争点となる遺構である。

7 出作遺跡 SX03



6 出作遺跡 SX02



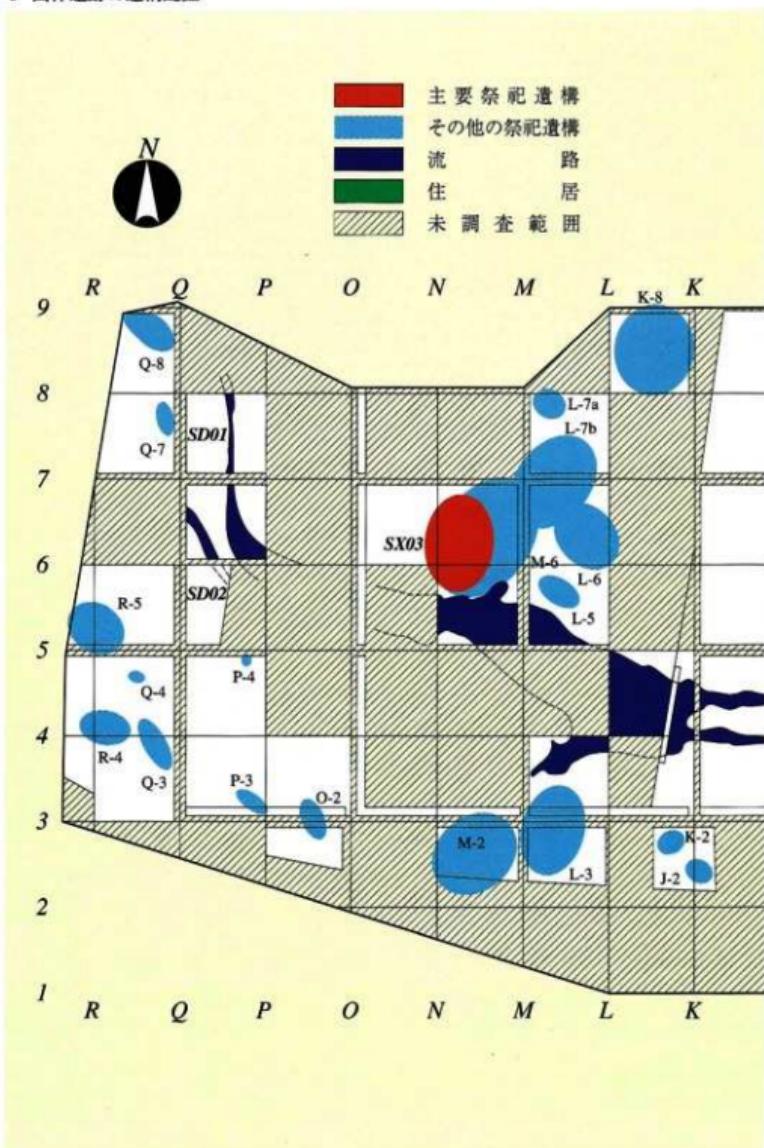
g. 遺構の変遷と時期

主要祭祀遺構は SX03→SX01→SX02へと発展的に変遷している。

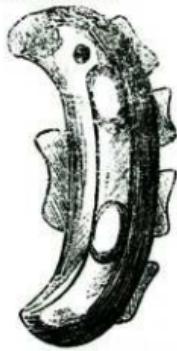
時期は SX03が須恵器を伴わず、また土師器の特徴から5世紀中葉(5世紀前半)と考えられる。SX01は出土須恵器から5世紀後葉(5世紀後半 TK308~TK20)と考えられる。なお、SX02やその他の小規模な祭祀遺構および竪穴式住居SB01は、いずれも SX01とほぼ同時期である。

報告書より転載

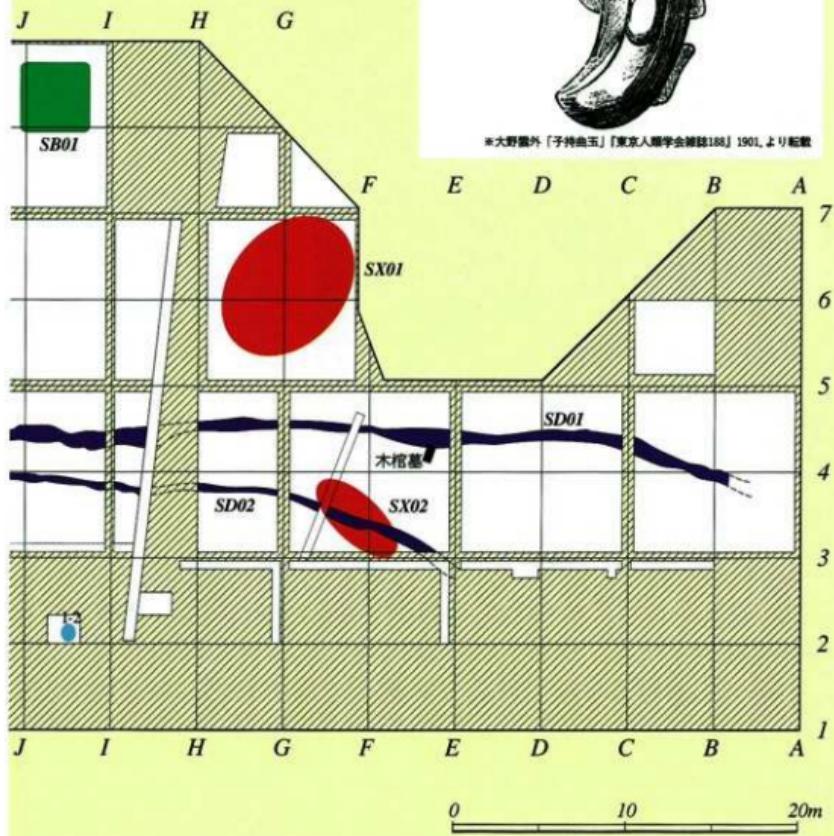
8 出作遺跡の遺構配置



9 子持ち勾玉（徳丸付近出土）



*大野豊外「子持曲玉」「東京人間学会被説188」1901. より転載



原案：報告書
デザイン：真鍋

乙. 祭祀の道具

a. 土師器

土師器の変遷 土師器は、すべての祭祀遺構から出土する普遍的な遺物である。壺・甕・高杯など日常容器のほか、祭祀用の小型模造土器が出土する。土師器は、器種構成や形態的・技法的特徴の変化から SX03→SX01へと変遷している。

SX03では壺・甕・高杯類を中心であったが、SX01ではそれらに加えて杯・碗類の供膳具や瓶などが加わり、豊富な器種構成となる。

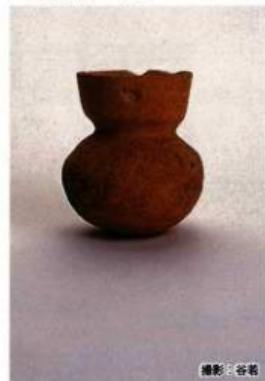
10 SX03の土師器



形態変化は小型丸底壺に頗しい。SX03では口縁部が比較的発達しているが、SX01ではそれが退化している。

技法の変化は高杯脚部の接合法に認められる。SX03では脚部と杯部の接合が手間をかけたより丁寧な方法が主流であったが、SX01ではより簡易な接合法となり、製品の量産化を助けている。このほか胎土・焼成などの点からも、SX03から SX01へと粗製品化が認められ、生産は簡略化の傾向にある。

11 土師器の小壺 (SX03)



撮影：谷若

12 SX01の土師器



撮影：谷若

13 土師器の壺 (SX01)



撮影：谷若

土師器の翫 翫は須恵器特有の器形である。ところがSX01やSX03から土師器の翫が出土している。特に須恵器を伴わないSX03の土師器翫の存在は、SX03の時期に古式の須恵器（奥邑編年TK73~TK21）は存在したが、供獻されなかつた可能性を示唆している。

一方、須恵器にも土師器を模倣したと思われる小壺があり、須恵器製作集団と土師器製作集団の間における技術交流が想定される。

14 土師器の翫 (SX03)



撮影：谷若

15 土師器の翫 (SX01)



撮影：谷若

17 黒色土師器の壺 (SX01)



撮影：谷若

小型模造土器 手捏ねによる小型・粗製のミニチュア土器は、祭祀を特徴づける遺物のひとつである。日常使用される土器類（壺・盃・碗など）が模造される。SX01やSX03からも多数が出土している。

16 小型模造土器 (SX01)



撮影：谷若

黒色土師器 SX01出土の壺・高杯や杯類の中に、黒色の土師器がある。これらは器面に炭素を吸着させ、意図的に黒色処理を施したものである。黒色土師器は須恵器の代用品として開発されたと言われるが、出作遺跡の場合は、祭祀専用の土器として特別に製作された可能性もある。

b. 須恵器

須恵器は、5世紀になって朝鮮半島から導入された新たな製陶技術で生産された硬質の焼物である。

陶邑系須恵器 須恵器はSX01やSX02など主要祭祀遺構や包含層から多数出土している。

形態的には多くが畿内陶邑窯跡群の系統に属する「陶邑系須恵器」である。時期は5世紀後葉(西暦約400年TK200~TK230)を主体とし、遺跡の終末を示す6世紀前葉(中葉)(西暦約500年MT15~TK10)のものも若干出土している。

なお陶邑系須恵器とは言え、必ずしも搬入品ではなく、松山平野で生産している可能性も十分にある。

20 非陶邑系須恵器の高杯 (SX01)



撮影：谷若

非陶邑系須恵器 陶邑系須恵器とは、形態や製作技法が、明らかに異なる別系統の須恵器が少なからず存在する。これをここでは「非陶邑系須恵器」と呼ぶ。多くが松山平野における生産(伊予市市場南組窯跡など)と思われるが、朝鮮半島から直接搬入された「陶質土器」の可能性もある。

非陶邑系須恵器は、SX01出土品に高杯2種・壺2種・器台1種があり、またSX02出土品には壺1種・壺1種がそれぞれある。

18 陶邑系須恵器の杯蓋 (SX01)



撮影：谷若

19 陶邑系須恵器の高杯 (SX01)



撮影：谷若

21 非陶邑系須恵器の壺 (SX01)



撮影：谷若

22 非陶邑系須恵器の壺 (SX01)



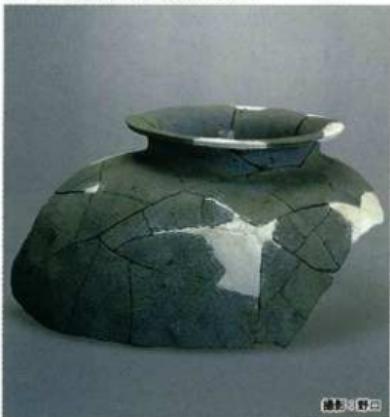
撮影：野口

23 市場南組窯跡の須恵器



撮影：谷若

24 非陶邑系須恵器の壺 (SX02)



撮影：谷若

26 非陶邑系須恵器の小壺 (SX01)



撮影：谷若

いちばなんぐみやかわるき
市場南組窯跡 伊予市周辺

市場南組窯跡は、出作遺跡にほど近い松山平野最古の須恵器窯である。出土品はすべて非陶邑系であり、中にはSX01出土の非陶邑系の高杯や壺に類似するものがある。

このことから出作遺跡の非陶邑系須恵器は、市場南組窯跡など伊予市周辺の窯から供給された製品である可能性が強い。

酷似する壺 このほか SX02出土の非陶邑系の壺は、松山市の東野9号墳や東山古墳群に酷似する例がある。

こうした松山平野に限定的に分布する非陶邑系須恵器については、在地生産の可能性を示唆するものである。

25 非陶邑系須恵器の壺 (SX02)



撮影：谷若

初期須恵器の生産 これら松山平野の非陶邑系須恵器の源流は、朝鮮半島の伽耶地域に求められると言われる。

これは初期の須恵器生産が、畿内陶邑で独占的に行われただけではなく、松山平野においても、朝鮮半島の影響を強く受けて独自に展開したことを示している。

c. 鉄 器

鉄器の組成 出作遺跡からは、鉄製の農工具や武器など実用具(39.7%)のほか、ミニチュア斧形などの祭具(14.8%)と共に、鉄鋤をはじめ鍛冶に伴う残片や未製品などの鍛冶資料(55.5%)が多量に出土した点が注目される。

鉄製農具のセット SX01から出土した耕起具(鋤先・三股鉤・鍛造トウ鉄)と収穫具(鋤・穂頭)は、古墳時代中期における鉄製農具の良好なセットとして注目される。

また SX03出土の鋤鋸先は、全国でも最古級の牛馬耕用の鋤あるいは踏動の可能性があると言われ、今後、古代の農具史で論議を呼びそうである。

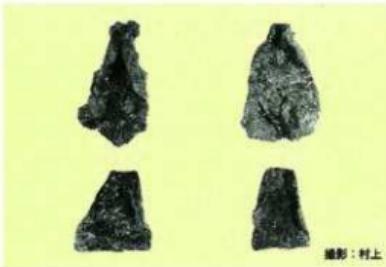
鉄鋤と供給地 鉄鋤は当時の鉄素材として流通した「インゴット」である。

出作遺跡の鉄鋤は、奈良県ウワナベ古墳の陪塚とされる大和6号墳や、朝鮮半島の洛東江流域出土品と形態的に類似する細形タイプのものである。

果たしてこの鉄鋤はどこから供給されたのであろうか。第①：朝鮮半島からの直接輸入？第②：畿内ヤマト王權からの配布？第③：国内生産品の入手？などが考えられる。

特に第③を考えた場合、日本における製鉄起源の問題なども大いに関連してこよう。

31 ミニチュア斧形 (SX01)



撮影：村上

27 鉄器の組成 (出作遺跡)



28 三股鉤 (SX01)



撮影：村上

29 鉄 鍤 (SX01)



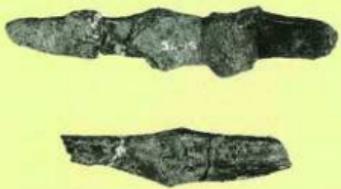
撮影：村上

30 穗摘具 (SX01)



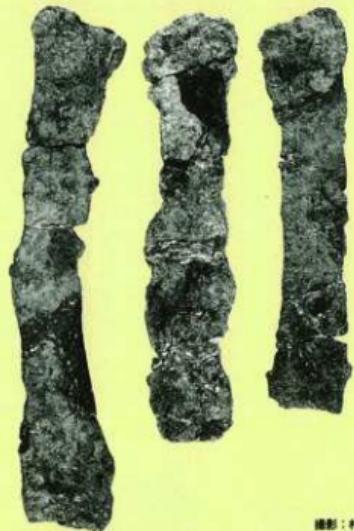
撮影：村上

32 刀子 (SX01)



撮影：村上

33 鉄錠 (SX01)



撮影：村上

34 錫造残片 (SX01)



撮影：村上

鉄器生産と焚火跡 鉄錠から製品を目指して加工する過程で生じる残片には、三角形や四角形のものがあり、それぞれ鑿による「切断痕」や「捻れ」が顕著である。

こうした鍛冶資料の存在は、出作遺跡において農工具類を中心とする鉄器生産が行われ、併せて祭祀に供獻されたことを示している。そうした点からすれば、多数が点在する焚火跡に鍛冶遺構を想定することもあながち飛躍ではない。

鍛冶集団 これらの鍛冶資料は、出作遺跡の經營に、鍛冶集団が深く関与していたことを示している。そして何よりも興味深いのは、その生産と同時に、祭祀といった特殊な消費形態を示していることである。

35 鍛冶資料 (SX01)



撮影：村上

d. 石製模造品

石製模造品とは、いわゆる「三種の神器(=剣・盾・玉)」などを、石で平面的にデフォルメした専用の祭具である。

石製模造品の組成 出作遺跡では、勾玉・剣形・円板(=盾の模造)・白玉・紡錘車などの石製模造品が出土している。夥しい量の白玉を除くと、圧倒的に円板が多く勾玉や剣形は少い。

石製模造品の大半がSX01から出土したが、SX03からも少量の円板と共に、模造化されない立体的な硬玉製勾玉が出土し、古くは実用品も供献されたことが知られる。

石製模造品の製作 注目すべきは、石製模造品がこの地で製作されていることである。

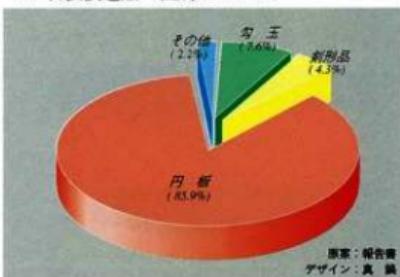
各種模造品には、多量の未製品や素材剥片・石核のほか、多様な砥石も出土している。また当地になじみの結晶片岩類が石材の過半数を占める点も証左となろう。

このような製作の実態から、出作遺跡の経営に、石製模造品など玉造集団が存在し、鉄器と同様に祭祀の実修に関与していたものと考えられる。

38 円 板 (SX01)



36 石製模造品の組成 (出作遺跡)

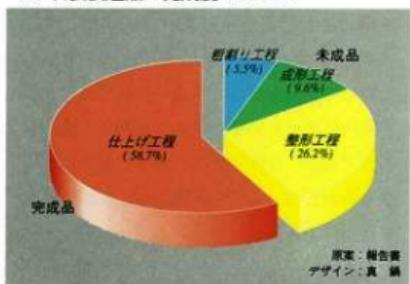


37 勾 玉 (SX01)

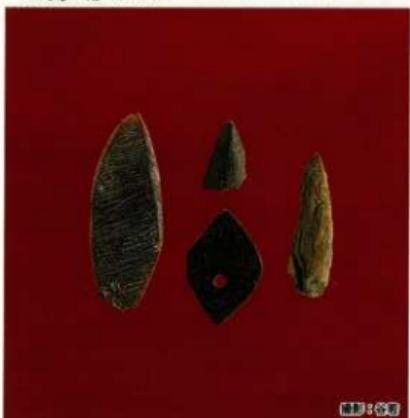


撮影：吉田

39 石製模造品の完成度（出作遺跡）



40 剣形（SX01）



撮影：谷若

41 石核と剝片



撮影：谷若

石製模造品製作の特徴 出作遺跡における石製模造品製作の特徴は、第①：各製品における「穿孔」＝^{穴あき}が比較的早い段階に実施される。第②：成形(塑型)や整形(彫刻)の主な行為は「切削」や「削剥」＝^{刃子}^{せき}であり「擦切技法」は存在しない。こうした石製模造品の製作技法は、鉄製工具の普及と使用を背景として成立したものと考えられる。

白玉の供献単位 白玉では、同形・同質のものが10個前後で偏在するケースが数例認められる。これは製作の単位であると同時に供献単位と見ることもできる。

石製模造品の生産と流通 これら石製模造品は、果たして単に出作遺跡近辺の消費に留まるものなのか？あるいは、松山平野全域へとより広範に流通したのか？が問題である。

出作遺跡の出土量は、一遺跡の消費に留まる量とも思えない。このことから、出作遺跡で製作された石製模造品が広く松山平野各地の遺跡に流通したとの考え方もある。今後は石製模造品自体の比較・検討によってその当否を検証してゆく必要がある。

42 白玉の完・未製品



撮影：谷若

e. 紡錘車

「紡錘車」は糸を作る際に、遠心力の弾みで繊維に撲りをかけるための重りである。

有段紡錘車 SX01からは石製・土製の紡錘車がそれぞれ出土している。特に土製紡錘車は有段(1周)であり、伊予地域の前期首長墓である吹上ノ森1号墳から出土した、有段(3~4周)の紡錘車形石製品が形骸化した形態である。

43 紡錘車 (SX01)



撮影：谷若

f. 製塩土器

塩の呪力 塩には「祓え」や「清め」の効力があり、祭祀の重要なアイテムのひとつであった。SX01からは、製塩土器が少数ながら出土しており、塩が供獻されたと思われる。周防灘系の製塩土器 製塩土器は、いずれも底部が円柱状を呈する特徴的な形態のもので、周防灘沿岸地域を中心に分布する美濃ヶ浜式である。

44 製塩土器 (SX01)



撮影：谷若

紡織具と女神 紡錘車をはじめ紡織具の呪術性については諸説があるが、それらが女神に対して奉納される点では一致している。

古代における紡織生産は、重要な生業のひとつであり、女性労働力に大きく依存していたと思われる。よって紡織具は、女神に献じられたのであろう。

伊予灘海人？ 現在の出作遺跡は、海岸と直線距離で5.5kmとやや離れるが、旧重信川を利用すれば直接連絡することは容易である。

こうした製塩土器は、当時の伊予灘沿岸に海人集団(=製鹽師)の存在を暗示すると同時に、製塩土器の形態的特徴から、この集団が伊予灘を通じて西方の周防灘地域と密接な関連を有していたことを示唆している。

3. 祭祀の構造と性格

a. 祭祀の変質

出作遺跡における祭祀の変遷について、SX01やSX03の規模や構成遺物の点から比較すると、時期を経て格段の変化が認められる。

先ず5世紀中葉のSX03は、多量の土師器や土製模造品と若干の鉄器や石製模造品で構成され、須恵器は供献されないコンパクトな祭祀であった。

ところが5世紀後葉のSX01になると、多量の須恵器の供獻が始まり、また銀治資料を含む鉄器類や石製模造品類が急増するとともに、製塙土器や紡錘車までも加わり、多様な遺物による大規模な祭祀として発展的な変化を遂げている。

45 主要祭祀遺構の構成遺物（出作遺跡）

祭祀遺構	SX03	SX01	SX02
土師器	●	●	●
土製模造品	●	●	●
須恵器	×	●	●
鉄器	●	●	●
石製模造品	●	●	●
銀治資料	●	●	●
紡錘車	×	●	●
製塙土器	×	●	●
時期	5世紀中葉	5世紀後葉	5世紀後葉

b. 祭祀の参加者

祭祀遺物は、祭祀に参加した集団を象徴していると考えることはできないであろうか。たとえば、須恵器=製陶集団、鉄器=鍛冶集団、石製模造品=玉造り集団などである。

このように見ると、SX01の形成段階に至って、製陶・鍛冶集団など新たに外来系生産集団が祭祀に参加したと考えられる。

c. 祭祀の主催者

こうした大規模な祭祀とは、いったい誰が挙行したのであろうか。

おそらく、さきの外来系生産集団をはじめ、在来系の生産集団（土師器=土師集団、製塙土器=製塙集団）を複合的に支配し、松山平野南部一帯に大きな政治勢力を誇った王たち（伊予グルカ）によって主催されたと考えられる。

46 子持ち勾玉（横田付近出土）



・後藤守一「子持勾玉の新例」[考古学雑誌23-7] 1923.より転載

d. 祭祀の対象

祭祀の対象については、いくつかの説が想定されているが、祭祀遺構にほど近い流路の解釈を巡って見解が大きく分かれる。

たとえば、流路を自然の小川や泉と考えれば、農耕に不可欠な水との関係から「水辺の農耕祭祀」が先ず想定されよう。

しかしながら、この流路を人工の区画溝と見れば、発掘区は集落の一画（南西割）の可能性が強く、竪穴式住居の存在も容易に説明できる。そして、多数の鍛冶資料や石製模造品類の未製品が祭祀遺構に混在することは、各生産集団が、生産→供獻（消費）を実修した可能性を示唆するものであり、「生産に関わる集落内祭祀」の可能性も十分に考えられる。

II 伊予地域の王たち

1. 「伊予グループ」の系譜

伊予グループ

古墳時代の松山平野には主要河川である石手川や重信川を境界に、大きく3系統の首長墓系列(北部・中部・南部首長墓系列)が存在する。そのうち松山平野南部(現在の伊予市北東部を指す)の首長墓系列を、ここでは「伊予グループ」と呼ぼう。

嶺昌寺古墳(別名:広田神社古墳)……………伊予市上三谷

伊予グループにおける最古の首長墓は、嶺昌寺古墳である。出土した三角縁神獸鏡2面の内1面は京都の椿井大塚山古墳と同范関係にあり、畿内ヤマト王権と親密な前期の首長が想定される。

吹上ノ森1・2号墳……………伊予市宮下

吹上ノ森1号墳は、葺石・埴輪(環形馬頭)を伴う墳丘(前方後円墳:全長40mと円墳:直径20mを有り)で、方格四獸鏡1面(直径17cm)・筒形銅器2個・紡錘車形石製品3個・鉄劍・刀などが出土している。

また吹上ノ森2号墳の墳丘(前方後円墳:全長60mと円墳:直径15mを有り)からも埴輪が出土している。

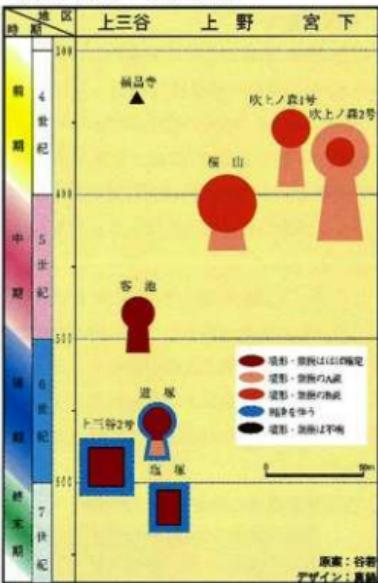
吹上ノ森1・2号墳の墳形・規模には諸説があるが、4世紀後半の首長墓と考えられる。

47 吹上ノ森1号墳の出土遺物



撮影:谷若

48 「伊予グループ」の系譜



桜山古墳……………伊予市上野桜山

桜山古墳は、行道山北麓(標高約20m)に単独立地し、墳丘(帆立貝形前方後円墳:全長40mと円墳:直径30mを有り)には、葺石と多様な埴輪(円鏡、馬頭、蓋甲など)がめぐらされている。

桜山古墳は、先の首長墓の所在する上三谷地区(嶺昌寺附近)と宮下地区(吹上ノ森1号附近)のちょうど中間である上野地区で、しかも高所に立地することから、前期末～中期前半における伊予グループにおける盟主的な首長墓であるようと思われる。

なおこの時期以降、猪の塗古墳(漆塗器)や尊嶽社古墳(塚1)など箱式石棺墳が出現する。これを新たな有力者層の台頭とするならば、桜山古墳を頂点として階級分化の兆しがここに看取れよう。

客池古墳と遊塚古墳伊予市上三谷

桜山古墳に直続する首長墓は現在のところ不明であるが、後続する首長墓として客池古墳(全長30m、看板)や、遊塚古墳(後円径20m、周溝、祭祀土坑)などの前方後円墳が挙げられる。

客池古墳の主体部は石室であるが、豊穴式か横穴式かは不明である。よって時期判断は難しいが、おおよそ中期末～後期前半(5世紀後半～6世紀前半)と思われる。

遊塚古墳は、発掘調査の結果、後期後半(6世紀後半)の造営と考えられる。

49 客池古墳の墳丘(前方部から)



塩塚古墳と上三谷2号墳伊予市上三谷

塩塚古墳は、周溝を伴う長方墳(邊21.7m×28.8m以上)で、巨石の横穴式石室(全幅6m以上)から、彷彿した四神四獸鏡1面(直径10cm)・銀装圭頭大刀1振・銀装帶?などが出土した。

また上三谷2号墳は、周溝・外護列石を伴う長方墳(邊28.3m)で、複室構造の石室(全幅11.7m以上)から、馬装具などが出土した。

上三谷2号墳は6世紀末、塩塚古墳は7世紀初頭の造営と考えられ、ともに古墳時代終末期の首長墓である。

50 塩塚古墳の石室



伊予グループと出作遺跡

伊予グループの系列を今一度整理すると、
横昌寺古墳→吹上ノ森1・2号墳→桜山古墳
→?→客池古墳→遊塚古墳→上三谷2号墳→
塩塚古墳へと辿ることができる。

ところが、出作遺跡の出現・展開の時期(5世紀中葉～6世紀)の伊予グループには、適当な首長墓が見当らない。桜山古墳ではやや古く、客池古墳が最も近い時期のように思われるが不明な点が多く、また立地的に隔たる恨みもある。

現在こうした伊予グループにおける中期首長墓の不在については2通りの考え方がある。

第①は、当時の首長を別系列(沖浦長系)に求め立場である。これは松山市平井の觀音山古墳(5世紀中葉の大型帆立貝形鏡で看板・羽輪・円筒・盾形・羅甲が出土)が、当時の松山平野の盟主の大首長として君臨し、出作遺跡もこれに属したとする考え方である。第②は、伊予グループがほぼ古墳時代全期を通じて形成されることから、この期の首長墓も新たに伊予グループから発見される可能性を重視する考え方である。

いずれにしても、首長墓系列をどのように理解するかは、当時の松山平野の権力構造を知る上で重要な視点である。

乙. 王と渡来系集団

猪の窪古墳の被葬者伊予市宮下塚の墳

猪の窪古墳は、丘陵頂部に近い山腹(標高16m)に営まれた5世紀前半の円墳(直径30m)である。主体部の箱式石棺(高さ1.8m)は、男性2体(年齢30歳)を順次埋葬し、粘土で厚く覆われていた。

副葬品は、石棺の内外から鉄器類(劍・盾・刀・鎧・馬具等)や刀子・骨子・金銀などをはじめ、玉類(ガラス小玉)や土師器片(ミニチュア土器・高柄碗)が出土した。

51 猪の窪古墳の鉄製農工具



撮影:谷口

風呂ヶ谷古墳の装飾須恵器伊予市宮下塚

風呂ヶ谷古墳からは、興味深い須恵器が出土している。須恵器は6世紀前半の広口壺で、肩部に乘馬の貴人像が幾対か装飾されている。

騎乗の人物像は「美豆良」の頭に、尖り気味の冠帽を頂き、頭飾りで盛装している。

また騎馬像では、豪奢な馬装具(鞍・馬具・手袋等)が精巧に表現されている。

ここに見る冠帽や馬装具は、朝鮮半島の影響を色濃く受けたものであり、風呂ヶ谷被葬者もあるいは渡来系の人物であったのかも知れない。

猪の窪古墳の特質は、小墳ながら豊富な鉄器を所有するところにある。鉄器の中には鑿などの鍛冶具もあり、生前の被葬者が鉄器生産と深く関わっていた可能性が強い。そして被葬者が、瀬戸内地域では異例の長頭・長身(老年男性=頭長幅指数72.9で推定身長189cm)であることに注意すれば、猪の窪古墳は渡来系集団(特に難波國)の長クラスの墓であるように思われる。

52 風呂ヶ谷古墳の装飾須恵器



撮影:谷口

III 松山平野の祭祀遺跡

1. 福音寺の集落と祭祀

福音寺と「伊予三山」 松山市福音寺地区は、松山平野の中央東寄りに位置する。この地区は、小野川と川附川の堆積作用によって形成された扇状地であり、いわゆる「伊予三山」と呼ばれる天山・星ノ岡・東山の分離独立丘陵を西方に望むことができる。

福音寺地区における遺跡は、1973年以来の国道11号の建設工事によって発見され、近年ではその沿線における開発によって、弥生時代～古墳時代にかけての大集落である福音小学校構内遺跡が発見されるなど、集落經營の様子が徐々に明らかになりつつある。

53 石釧（福音寺竹ノ下遺跡）



撮影：大西

54 獣形木製品（福音寺竹ノ下遺跡）



撮影：大西

福音寺竹ノ下遺跡……………松山市福音寺竹ノ下福音寺竹ノ下地区では、1973年松山市によって実施した発掘調査の結果、建築用材を転用した杭列や護岸遺構を検出するとともに、初期須恵器陶器と土器群や多数の土器・木製品・植物遺体などが出土した。

石釧と獸形木製品 特筆すべき遺物としては、県内唯一の碧玉石製腕飾りである石釧や、獣の顔を彫り込んだ獸形木製品、多量の手捏ね土器などがあげられる。また木製品の中には、農具・工具・生活用具だけではなく、弓・舟形木器など非日常生活用具も含まれている。

水神の祭祀 こうした特殊な遺物と護岸遺構との位置関係については、出土状況を再検討する必要があるため即断はできないが、遺跡周辺が川附川の氾濫を受けやすい低湿地帯であることから、川の神に対する祭祀の行為が行なわれた可能性の高い遺跡と言えよう。

なお、こうした立地条件のところにおいて、祭祀行為が行なわれた遺跡は、高知県の四万十川下流域をはじめとして全国各地で確認されている。

55 護岸遺構（福音寺竹ノ下遺跡）



提供：松山市教育委員会

北久米淨蓮寺遺跡……………松山市北久米淨蓮寺

北久米淨蓮寺遺跡は、松山市によってこれまで4次にわたる発掘調査が行なわれている。特に3次調査では、1992年に広範囲の発掘調査が行なわれ、5～7世紀における集落の変遷が明らかになった。

5世紀前半代の竪穴式住居は、過去の1次調査において確認されている住居を含めると、計3棟の住居が併存していたことになる。

特に3次調査の竪穴式住居SB-9は、5世紀前半に北西壁の中央に造り付けカマドを設置したのち、5世紀中頃に床面の規模を拡張すると同時に柱を建て直し、再び北西壁の中央にカマドを設置している。

拡張後のカマド北壁に平行して、粘土による台状造構(幅約50cm、高さ約10cm)が付設され、ここに須恵器の甕が据え置かれていた。

57 北久米淨蓮寺遺跡と星ノ岡丘陵



また、カマド中央には土師器の高杯が伏せた状態で検出されており、カマド廃絶時の祭祀に関わるものと推定されている。

このように、朝鮮半島から伝来した須恵器の製作技術と、住居内におけるカマドの設置とは密接に関連していると考えられ、カマドの廃絶に絡む祭祀のあり方が注目される。

56 建て替え住居 (北久米淨蓮寺遺跡)



提供：松山市教育委員会

2. 辻町遺跡の祭祀

宮前川の流域 松山城や道後温泉を上流域とする宮前川は、松山平野の北西部を迂回し三津浜湾にいたる。流域には、宮前川遺跡群(佐生古墳・古照遺跡群(古井・井櫛遺跡)・大峰ヶ台遺跡群(佐生古墳と古井))など、平野を代表する遺跡が数多くある。

辻町遺跡……………松山市

1991年、宮前川の中流域にあたる辻町遺跡から、集落内で行われたと思われる祭祀遺構が検出された。

遺構(約3mの範囲からは、完形品を含む多くの土師器・須恵器・滑石製白玉が出土した。特に完形品が集中する地点では、土師器の高杯・長頸壺や須恵器の高杯など、器高の高いものが中央で出土している。さらに土師器は南側、須恵器は北側で出土し、土器の共獻形態がうかがわれるものであった。滑石製白玉は、中央にある土師器長頸壺の中から5点、その周辺から14点が出土し、土器を据え置いたのち、白玉が散在した状況が見られた。

58 辻町遺跡の遺物出土状況

このほか、調査区内では焼土も検出され、古墳時代中期の集落内祭祀とその行為がうかがえるものであった。

辻町遺跡は、1993年に2次調査が行われ、多量の土器と焼土・炭・骨などが出土し、遺跡一帯は祭祀の場として機能していたと考えられる。

58 辻町遺跡の遺物出土状況



松山市教育委員会

59 辻町遺跡の土器（1次調査）



撮影：大西

3. 集落内祭祀の盛行

古墳時代中期、松山平野にも大陸的文化が多いに流入してくる。須恵器作り、鉄器製作、住居にはカマドが設置され、日常生活の変化に呼応するように祭祀形態も多様化する。

松山大学構内遺跡……………松山市文京町

松山大学構内遺跡の2次調査1号住居では、カマド構築に際し土坑を掘り、最深部に小型壺を埋めるという祭祀行為を行っている。このほか、住居及びカマドの廃棄に伴う祭祀行為(祭祀擾乱)は各所でみられる。

一方この時期、祭祀具では勾玉・円板・管玉・白玉といった石製模造品が盛行し、福音小学校構内遺跡や出作遺跡などで多量な出土が見られる。

子持ち勾玉 これらのうち特筆すべきは子持ち勾玉で、松山平野の4遺跡から出土している。その出土量は一平野としては西日本でも有数である。子持ち勾玉の出土地は、宮前川(大森ヶ台・客谷古墳)、小野川(福音小学校構内)、旧重信川~大谷川(懐丸・横田付近)といった主要な河川流域にあり、当時の社会状況をうかがわせるものであり興味深い。

62 勾玉の製作工程 (出作遺跡)

60 カマドの祭祀 (松山大学構内遺跡 2次調査)



61 子持ち勾玉と勾玉 (福音小学校構内遺跡)



撮影: 大西



撮影: 吉田

エピローグ

王たちの祭祀

「祭敵一致」の古代社会において、クニの存亡に関わる重大事は、王が直々に司祭した。

出作遺跡の祭祀は、王たち(伊予グループ?)による農耕・手工業など生産向上の儀式であった。そして最も重要な点は、その祭祀がSX03とSX01を境に大きく変化することである。

SX01では、製陶・鋳造集団など当時の新来技術集団を新たに関与させ、また祭祀專業の玉造り集団を直接抱えるなど、在来の生産集団も含めてあらゆる階層が祭祀に動員される。

これは、王たちが新・旧の生産集団を併せて把握・再編し、新たな支配体制の確立を意図した結果であり、こうした祭祀スタイルはまさに「政治」であった。

なお、福音寺竹ノ下遺跡の水に関わる祭祀も、王の威光を伺わせる碧玉製腕飾類や玉杖の柄頭と思しき木製品が含まれており、当地の王が挙行した祭祀のように思われる。

63 新しい時代の到来

民衆の祭祀

やがて祭祀は、王のみならず民衆にも委ねられるようになり、多様化が進行する。

北久米淨蓮寺遺跡や松山大学構内遺跡では、イエの中の新たな厨房(カマド)で祭祀が行われ、また辻町遺跡では、ムラの中で共飲共食儀礼的な祭祀が実修されていた。

このような民衆祭祀の進展は、各階層が相互に自立性を強め、より熟成された社会(歴史的)が誕生しつつあることを物語っている。

新たな時代の到来

古墳時代中期の松山平野の人々は、大陸から渡来する文物のニュー・ウエーブを、祭祀と政治によって受け止め、新たな時代を自らが創出したのであった。

こうした祭祀のあり方は、日本における古代国家の成立過程、とりわけ激動の「倭の五王の時代」における地域社会の構造を考える上で、極めて貴重な資料である。



図5: 北寺上

出作遺跡の祭祀とその史的意義

1. 出作遺跡の概観

遺跡について次のように確認しておく。

- ① 松山平野南部に位置し、平野部の遺跡である。
- ② 海岸線からは、砂丘等を間にして離れている。
- ③ 重信川(古くは伊川か?)の旧河道が近くを通っているが川岸とは必ずしも言えない。
- ④ 平野部微高地上にあって、近くに集落が予想される。
- ⑤ 微地形的には、東西に流れる自然流路、東半は幅50cmほどの溝2本?、西半は湧水地?から広くなり幅7~4m、後に北流する。
- ⑥ 特別な遺構は発見されていないが、遺物は群をなし、SX01, SX02, SX03等を中心を置く。
- ⑦ SX03とSX01との間には焚火跡が多数発見されている。
- ⑧ SX03は約3×1.5m範囲に、約2,000個の土師器と若干の碧石勾玉、石製模造品、鉄製品で構成され須恵器を伴出しない。

(脚註 TK73~TK116参照行か?)

- ⑨ SX01は約9×4mで、土師器・須恵器の他、数千個の白玉、勾玉、剣形、紡錘車などの石製模造品や鉄製品、土製品、砥石などの遺物が混在する。

須恵器は陶邑編年 TK208~TK23期併行とみられる。

- ⑩ SX02はSD01の溝沿いにあって、約2×0.5m土師器、須恵器と若干の石製模造品や鉄製品を伴う。 (脚註 TK208~MT75参照行か?)
- ⑪ SX01の鉄製品は、祭祀遺構としては比

國學院大學 桂山林雄

較的多いが、三叉歎・鋤先・曲刃鎌・手鎌・刀子・鋳造鉄斧、素材としての鉄錠などの他、武器としては鎌1点のみで、通常祭祀遺跡にみられる刀・劍は含まれていない。

- ⑫ 鉄製品に雑形鉄斧がある。他に鉢の切先かと思われるものがあるが、主体は斧形である。
- ⑬ 鉄製品は鉄錠や多数の鉄片などの状況から、この地で製作された可能性がある。
- ⑭ 石製模造品としては、約5,500点の白玉のほか、有孔円板（単孔円板は双孔円板の約3分の1）が、85.9%を占める。他に偏平の勾玉と剣形がある。未製品も多く製作していたことを物語っている。
- ⑮ 以上の遺物の状況から、5世紀後半に中心を置く祭祀遺跡である。
- ⑯ 製塩・海運・軍事等々も考えられなくなっているが、遺物で見る限り、農耕的色彩が強いようである。

2. 出作遺跡の位置

以上の観察確認から、出作遺跡と他の祭祀遺跡を比較してみる。

- ① 遺跡周辺には、伊予神社・高忍日亮神社・伊曾能神社・伊予豆比古命神社など延喜式内社の古社も多く、古代伊予の中心地であったと思われる。
- ② 須恵器生産の開始を含むこの地域の大規模な開発が進展する中で、農業経営からここで豊作祈願の祭りが行われたとする事ができる。

報告書の中で、相田氏の言われるように、東からの2本の溝の合流点に湧水的な機能

が想定されたとしたならば、この地点で焚火を焚き、雨乞いの祭りが行われたことも十分に予想される。

この祭祀には鉄器あるいは石製の祭器を作る集団等が動員されている。当然有機質の木製品・布製品などもあったと思われる。

③ 以上のことからみれば、地域開発の中心地として、その開発の急激に進行した時期の祭祀とすることができる。

④ 一方これだけで終わらせるか否か、これまでに発見されている西日本の祭祀遺跡に比較してみると、やや問題が残る。

それは、この出作遺跡の規模が大きいこと、位置が松山平野の一部であって、瀬戸内海西半の拠点となることなどから考えられる広い地域としての問題である。

⑤ 岡山県：高島遺跡、同県：荒神島遺跡、愛媛県：魚島大木遺跡、同県：火内遺跡など、島嶼部の遺跡には比較的共通した遺物などの出土状況がみられるが、これらのルートをたどると、山口県の海岸線に添うものと、やや離れて高知県の四万十川河口近くに展開するものがある。出作遺跡はこの両者、特に後者を結ぶ重要な位置にあると考えられる。

64 高忍日売神社（延喜式内社）…松前町徳丸



撮影：松前町観光協会

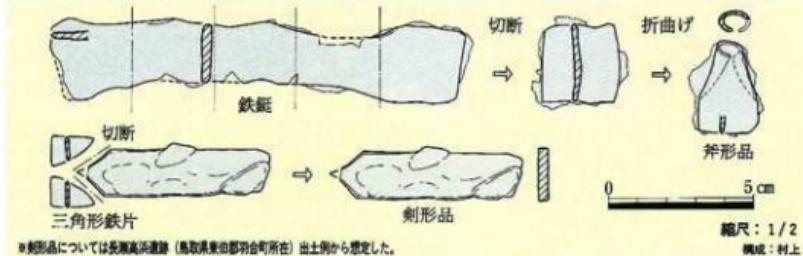
出作遺跡における鍛冶と祭祀

古墳時代の祭祀遺跡において、手捏ね土器や石製模造品とともに鉄製品が出土する例は珍しくはない。それらの中には、周知の種類以外はしばしば不明器種として取り扱われた鉄製品もあり、それ以上の追究が行われなかつたことも事実である。その意味において出作遺跡の祭祀遺構SX01はその卓越した鉄器の出土量のみならず、種類の同定とその性格が把握された点できわめて重要な意義をもつてゐる。

出作遺跡の出土鉄器は大まかに分類すると武器、工具、農具があり、このほかに鉄器生産に関連する鉄鋤やその破片が存在する。農具の中には朝鮮半島製と思われるものもあり興味をひく（鑄造梯形鉾：遺物番号012）。しかし、本遺跡の性格と鉄とを合わせて考える場合、その糸口となるのはやはり鉄鋤やその切れ端といった鉄器製作（鍛冶）に関連する資料が存在する点にある。

鉄鋤（ひりがね）は鉄器を作る際の素材である。それが祭祀遺跡から出土したこと、そしてそれにともなって鉄器製作の際生じる鉄板の端切れや微小な粒状滓が出土していることはこの遺跡で鍛冶が行われたことを暗示している。

65 雜形（ミニチュア）鉄器の製作過程



愛媛大学 村上恭通

共伴した雑形（ミニチュア）鉄斧は展開すると長方形の鉄板になるが、この鉄板を4～5枚つなぎだ長さは本遺跡で出土する鉄鋤1枚の長さに相当する。⁵⁵ また多数出土している小型の三角形鉄片は鉄器を製作する際の鉄板の端切れであることがすでに明らかにされており、何らかの鉄器を製作する際に生じた副産物であると考えられる。したがって鉄鋤、その切断片、そして製品の存在は鍛冶がこの祭祀遺構の近傍で行われたことを想定させ、しかもその製品が祭祀的色彩の濃いことから、鍛冶自体が祭祀行為の一貫に組み込まれていたことも十分に想像される。

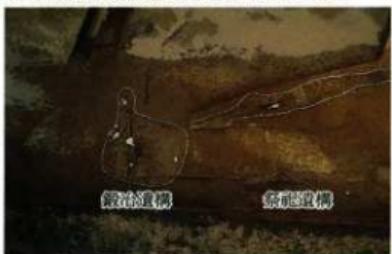
ただし、出作遺跡ではこの祭祀遺構に接して“焚火跡”が発見されているのみで、実際に鍛冶が行われた“場”的痕跡は特定されていない。そこで、鍛冶と祭祀をつなぐ重要な鍵を握ると思われる大分県日田市荻鶴遺跡の例を挙げてみよう。荻鶴遺跡では5世紀代前半の鍛冶遺構が発見された。東西約4.1m、南北約3.4mをかる長方形の竪穴遺構の床面には縦の羽口（高納の窓口）が固定された鍛冶炉があり、その傍らには鉄砧石が据えられていた。⁵⁶ さらに興味深いことは、この鍛冶遺構

から約8mほど東に離れた地点に小型の手捏ね土器が数点配置され、それらに接するようには鉄鋤が置かれていた点である。⁶⁸さらにそれに近接して、鉄鋤の裁断片が手捏ね土器、石製模造品とともに発見されている。⁶⁹この状況は鍛冶屋で整えられた鉄鋤がお供えものとして祭祀具に囲まれた聖域に献呈されたのではという状況を彷彿とさせる。

出作遺跡は土製品、石製品など多種大量の祭祀遺物を出土している点で、祭祀形態のあり方としては複合的に解釈せざるを得ず、荻鶴遺跡と同列に評価することはできない。しかし、鍛冶と祭祀とが結びついた様相は両遺跡の共通点である。

また両遺跡での収穫は鉄鋤の製作地問題にまで波及する。まず出作遺跡では祭祀用の鉄製品を製作するために惜しげもなく裁断され、供えられたと解釈できる。

66 鍛冶構と祭祀遺物の位置関係（荻鶴遺跡、南より）



68 鉄鋤の出土状況（荻鶴遺跡）



そして荻鶴遺跡では、鍛冶構で製作された鉄鋤とその端切れが、それに隣接する祭祀の場へ手捏ね土器・石製模造品とともに供獻されたという解釈が十分可能である。これは工程も時代も全く異なるが、あたかも「たら製鉄」において初鋤を金屋子神に獻げるがごとき行為である。つまり鉄鋤がそれぞれの遺跡で自給されていたとすれば、その由来を必ずしもすべて朝鮮半島に求める必要はなくなるのである。

以上のように出作遺跡、荻鶴遺跡の鍛冶関連資料は当時の“鍛冶祭祀”的あり方について意義深い示唆を行ったといえる。また過去出土した類例の再検討を促すとともに、祭祀遺跡の調査に対して、ひとつの指針を示すものとなろう。

*鍛冶炉で熱せられた、赤熱の鉄の表面から生じるものである。
これは不純物の塊であり、冷えて球状の微小塊になる。

67 鍛冶構近影（荻鶴遺跡）



69 鉄鋤片と祭祀土器（荻鶴遺跡）



提供：日田市教育委員会

出作遺跡の非陶邑系須恵器

1.はじめに

1)須恵器とは?

輪輪、窯(窖窯)、1,200°C以上、還元炎
焼成、青灰色硬質、新しい器種

朝鮮半島の陶質土器生産技術(渡来人)

2)初期須恵器 日本化する前の段階

從來: 大阪府堺市「陶邑」→全國へ波及

最近: 西日本一帯で初期須恵器窯の発見

陶邑での大庭寺窯の発見(最古?)

須恵器生産開始の諸問題が再浮上

2. 出作遺跡の須恵器・陶質土器

1)二つのグループが存在する

2)非陶邑系 形態・製作技法・器種などで

陶邑系と相違

[非陶邑系須恵器の特徴]

高杯: 無蓋無透孔、底部にタタキ、脚部
下方に1条突帯

壺1: 口縁端平坦、カキメの上に文様

2: 二重口縁様、口縁端平坦

3: 大型短頸壺

4: 小壺(土師器写しか陶質土器か)

甕: 細かな繩席文(陶質土器か)

2)陶邑系 蓋杯が多い、高杯は有蓋で一段透孔

3. 朝鮮半島の陶質土器

1)4世紀(古式陶質土器)には存在

2)5世紀以降、高句麗土器・百濟土器・新羅土器・伽耶土器の大まかな地域差(三国時代の国ごとに)、さらに各國の中でも小地域ごとに地域差

3)6世紀以降、地域差の消滅過程、新羅土器・統一新羅様式・印花文土器

京都文化博物館 定森秀夫

4. 出作遺跡非陶邑系須恵器の系統と年代

1)系統: 細かく確定することは困難だが、
消去法でいくと、伽耶系陶質土器の範疇
に入る(一部に百済的と思われる要素は
あるものの)。さらに、脚部とか口縁部
という部分的な要素で彼我を対比するな
らば、現時点では釜山・金海を中心とし
た洛東江下流域(金官伽耶)から南海岸
の馬山・咸安(安羅伽耶)方面の地域が
想定される。これをさらに特定していく
ためには、韓国上の記の地域(百済的と
思われる要素に関しては百済)での調査
が進展する必要がある。

2)年代: 高杯などを脚部だけとか口縁部だけ
というように個別に見ていくと、韓国
においてだったら4世紀に上りそうな要
素がある一方で、5世紀中葉までの要素
も見られる。ただ、5世紀後葉の要素は
ほとんど見られないことは要注意であろ
う。陶邑系須恵器との共伴関係からみる
と、5世紀後半を中心とするものである。

5. 松山平野の非陶邑系須恵器の問題点

1)生産・供給が地域的に限定される。

(1)生産地: 市場南組窯跡が可能性大

(2)供給先: 東山古墳群・五郎兵衛谷古墳
群・東野お茶屋台古墳群・畠寺古墳群、
福音寺竹ノ下遺跡・同筋連遺跡

2)生産・供給が時期的に限定される。

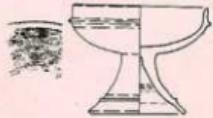
(1)生産が5世紀(中葉~)後半で単発的
(2)供給先とどのような関係?

6. 西日本初期須恵器の中での位置付け

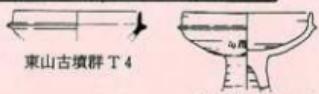
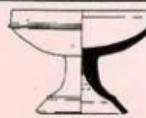
70 出作遺跡の須恵器と関連資料(1)



高杯



出作遺跡 非陶邑系



東山9号墳

松山平野 非陶邑系



市場南組窯



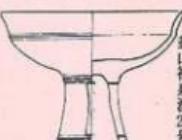
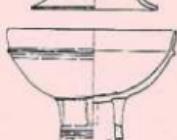
馬山縣洞21号墓
4c中

金海七山洞11号墳
4c中～後

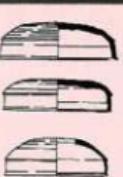
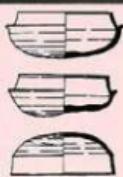
金海孔安里94号墳
5c前半



釜山福泉洞21号墳
5c前葉



釜山福泉洞22号墳
5c前葉



釜山福泉洞10号墳

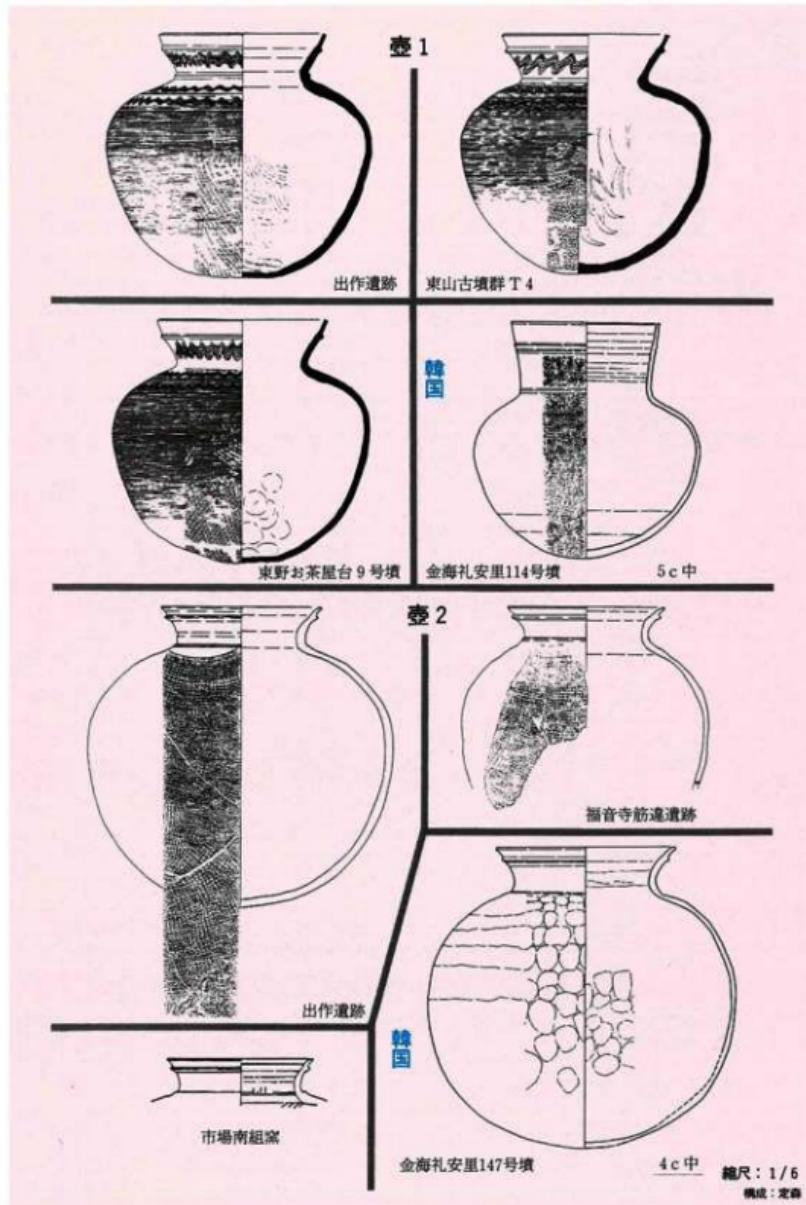


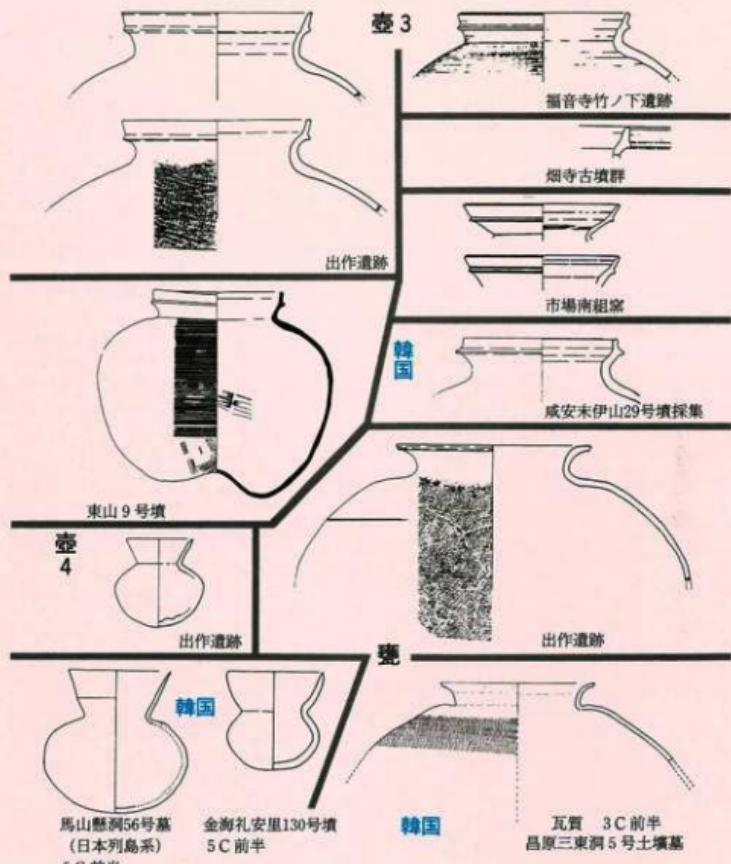
東山9号墳
陶邑系

出作遺跡 陶邑系

縮尺：1/6
構成：尾森

71 出作遺跡の須恵器と関連資料(2)





訂正

出作遺跡報告書では、壺2の大形短頸壺の類例を茨川玉田M3号墳のものに求めたが、71の金海礼安里147号墳のものがより近い形態であるとの、この壺2は6世紀に下る可能性があるとしたが、やはり5世紀の中に収まるものと考えておきたい。

出作遺跡出土鉄器の金属学的調査

出作遺跡は5世紀後半代の鉄鋤を出土し、よせて遺跡において鍛冶にかかる祭祀実習が行われた可能性も論じられている。さらに朝鮮半島での製作が想定される多種の農具(三叉先、U字形鋤、鍛造トクノなどの耕起用)等を出土して注目されている。(著者「出作遺跡出土の鉄鋤をめぐって」[出作遺跡] 松前町教育委員会1993.)

今回、これらの鉄製品のうちの鉄鋤、小型鉄片、U字形鋤、三叉鋤など9点について松前町教育委員会より基礎データ収集の調査要請があったので金属学的調査を行った。

調査項目はマクロ組織、顕微鏡組織、CMA高速定性分析、CMA特性X線像、CMA定量分析であり、遺物の保存状態に応じて適宜項目を選択した。その項目と調査試料は73通りである。

以上の分析結果に基づいて、出作遺跡出土の鉄製品に関して次のことが明らかになった。

<1> 細型鉄鋤および残片(鐵鋤破片、鐵鋤塊、三角形鉄片、U字形鋤、鉄鋤片)

いずれも金属鉄は残存せず、錆化鉄のゲーサイト(Goethite: $\alpha\text{-FeO}\cdot\text{OH}$)からの情報である。鉄素材は磁鐵鉱石を始発原料とした極低炭素鋼($\text{C} < 0.1\%$)の軟質鉄である。鉄鋤破片錆化物塊中の鉄鋤はU字形に曲げられており、その間接証明となる。なお、赤熱鉄材の鍛造延伸にあたっては、粘土汁を塗布して酸化防止を計られたと考えられる。錆化による剥落もあるが量は少なく、清浄度は良好であった。

<2> 農耕具(鍛造刃先、曲刃耕用器具、三叉鋤等)

鉄鋤は軟質極低炭素鋼であったのに対して、農耕具は幾分炭素量が多く、熱処理効果がある最低限レベル($\text{C} < 0.5\%$)前後である。材質は

たら研究会会員 大澤正己

硬質でなく、加工も容易なレベルの採用と想定された。

鍛造刃先は着柄装着用の溝切りを鍛接で行ったか鑄造か注目したが、後者の溝切りに可能性が強く感じられた。さらに該品は韧性強化に浸炭法の採用もあり得るであろう。

三叉鋤は一枚板からの成形の可能性を有し、造りも実作業に適した刃先角度をもたらした機能品である。歯爪の造りは幅広長方形に加工されて中は空洞となる。曲げ角度はほぼ直角を確保して、丁寧な造りの鍛造品であった。また、刃部の強化対策として、最表層部は高温加工によってフェライト結晶粒が細粒化された痕跡が窺われる。

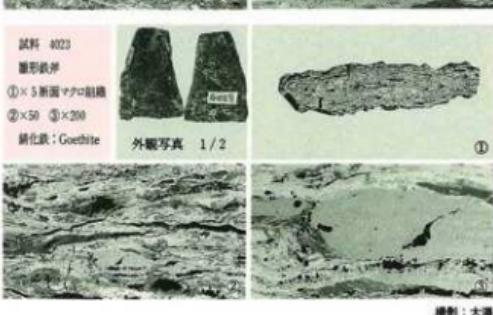
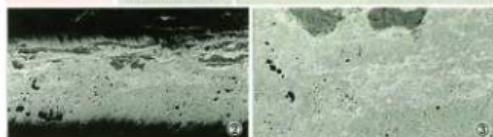
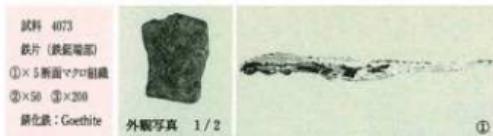
<3> 74は鉄鋤状鉄器の調査結果を集めている。森遺跡(大阪府交野市所在)の枚鉄(ひらがね)を除いて、總て鉄鉱石系である。年代が新しくなると国産品もあるが、5世紀代の製品は海外輸入品が多かろう。国内での鉄石製錬は広島県の一部、岡山県、滋賀県で検出されていて、製錬開始がどこまで遡るのか注目される。今回の調査品は産地同定までの情報は得られなかった。

<4> 鍛冶と祭祀を行った可能性をもつ出作遺跡と性格を同じくすると考えられる大分県日田市所在の荻鶴遺跡の関連遺物も調査している。鍛冶は鉄器製作の鍛錬鍛冶であって、小型楔形鍛冶、鍛打飛散の酸化膜の鍛造剝片等と鉄鋤破片を調査している。後日、機会があれば出作遺跡出土の粒状滓や鍛造剝片の比較検討ができると念ずる次第である。

73 供試材の種類と調査項目

No	報告書No	試 料	出土位置	計測値		調査項目				
				大きさmm	重量g	マクロ組織	顕微鏡組織	CMA 高炭化性分析	CMA 特性×総合	CMA 定量分析
1	4049	鉄鋸	SX01-75	54×25×2	8.8	○	○	○		
2	4006	鉄鋸刃先	SX01-76	93×26×4	32.7	○	○	○		
3	26(SX01-74)	鉄鋸破片錯化物	SX01-74	48×42×23	—	○	○	○		
4	4055	三角形鉄片	SX01	40×15×3	5.0	○	○	○		
5	4056	三角形鉄片	SX01-65	32×16×3	3.5	○	○	○	○	○
6	4023	鑿形鉄斧	SX01-75	32×23×3	4.9	○	○	○		
7	4073	鉄 片(鐵鋸部)	SX01-74	28×21×2	2.8	○	○	○		
8	4079	鉄 片(油刃?)	SX01-74	38×22×3.2	7.3	○	○	○	○	○
9	4001	三叉頭先	SX01	71×15×14刃歯	—	○	○	○		

75 出作遺跡出土鉄器の分析の一例 (マクロ組織及び顕微鏡組織写真)



74 参考表 鉄鋸状鉄製品の調査結果

No	埋没地	遺跡名	推定年代	原料	備考
1	愛媛	出 作	5C後半	鈍石	バチ形
2	大分	筑 鶴	5C前半	?	?
3	岡山	木本塚	?	?	?
4	?	?	6C後半	?	片側先端部
5	福岡	花菱2号墳	5C以降	?	板状鉄斧状
6	大分	下山古墳	5C前半	?	バチ形
7	大分	千ヶ原城塹	6C中期	?	?
8	千葉	南二重堀	5C中～後半	?	?
9	大阪	都津渋り	5C後半～6C	砂鉄	枚鉄状
10	香川	久米池南	弥生中期	鈍石	バチ形
11	兵庫	大崩山6号墳	5C後半	?	?
12	福岡	西新町	4C初頭	?	板状鉄斧状
13	?	久原遺跡下	?	?	?

作表: 大澤

おことわり

大澤先生には、詳細な分析及び考察結果を頂きながら、本図録紙面の都合により、抜粋せざるを得ませんでした。

分析成果については、松前町教育委員会が保管し、また、今後は全内容を公表することを責としたいと存じます。……【図録編者】

特別展出品リスト

No.1

番号	遺 踪 名	遺 物	数量	所 �藏
1	出作遺跡	土師器 小型模土器 製塙土器 黒色土師器 須恵器 鉄 器 紡錘車 石製模造品	157 59 3 9 86 81 3 5,724	松前町教育委員会
2	吹上ノ森1号墳	銅 鏡 筒形銅器 紡錘車形石製品 鉄 剣 鉄 刀	1 2 3 1 1	
3	猪の塚古墳	鉄 鐵 鉗 子 鋸 鍼 先 鉄 錄 鑿 鑿 鉄 斧 刀 子 鉄 剣 ガラス小玉	14 1 1 2 2 1 1 1 2 6 2	伊予市教育委員会
4	風呂ヶ谷古墳	装飾付須恵器	1	個人藏
5	福音寺竹ノ下	獸形木製品 船形木製品 丸木弓 石 鍋 須恵器 高杯 須恵器 把手付椀 土師器 小壺	1 1 1 1 1 1 1	松山市教育委員会

番号	遺跡名	遺物	数量	所蔵
6	北久米淨蓮寺3次	須恵器 壺 土師器 高杯 石製模造品 円板	1 1 2	
7	北久米常堰	土師器 樽	1	
8	辻町1次	土師器 高杯 土師器 壺 土師器 槌 須恵器 高杯 須恵器 蓋 須恵器 杯身 石製模造品 白玉	3 2 1 3 3 3 19	松山市教育委員会
9	松山大学構内2次	土師器 小型丸底壺 土師器 壺底部 石製模造品 円板	1 1 1	
10	福音小学校構内	子持ち勾玉 石製模造品 勾玉	1 1	

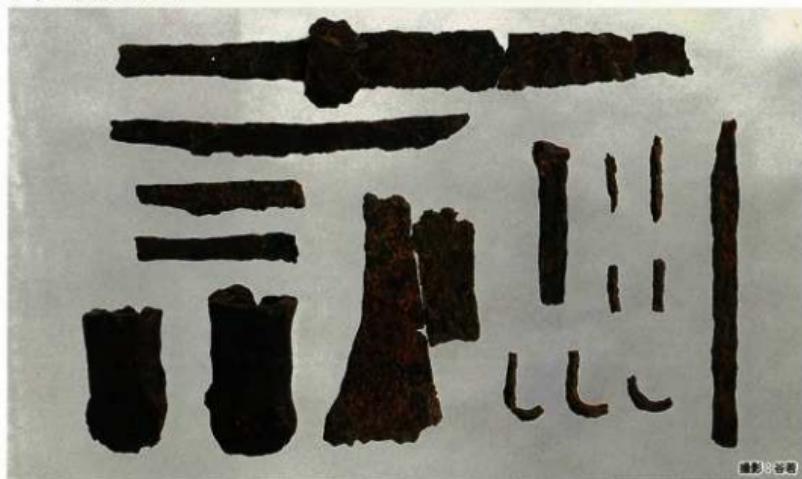
76 酷似する非陶邑系須恵器の壺（右：東山古墳群、左：出作遺跡、中：東野9号墳）



撮影：大西

番号	遺跡名	遺物	数量	所蔵
11	福音寺筋塚	須恵器 壺	1	
12	東山古墳群	須恵器 壺	1	松山市教育委員会
13	客谷1号墳	子持ち勾玉	1	
14	東野9号墳	須恵器 壺 須恵器 器台	1 1	愛媛県教育委員会
15	多々羅古墳	鐵 剣 鐵 斧 鑿 鑿 刀 子 鐵 鏟 鞘状鉄器 鉤状鉄器 その他	1 2 1 1 3 1 1 3 17	上浦町教育委員会
16	萩鶴遺跡	輪の羽口 鐵 鏟 鍛造剝片 小型模造土器 石製模造品 円板	4 1 一式 22 2	大分県日田市教育委員会

77 多々羅古墳の鉄器



撮影：谷君

展示協力者

機 関	伊予市教育委員会 愛媛考古学協会 株式会社バスコ 松山市考古館	愛媛県教育委員会 恵依弥二名神社 上浦町教育委員会 松山市埋蔵文化財センター	愛媛県埋蔵文化財調査センター 大分県日田市教育委員会 瀬戸内海考古学研究会		
個 人	東 潮 大西 朋子 梶山 林継 中山 典子 真鍋 昭文	池内 武久 越智友紀子 高市 廉久 西井上剛資 三好 裕之	今西 智子 楠 真依子 高橋 幸意 西岡 靖雄 村上 勝通	梅木 謙一 定森 秀夫 田崎 博之 西川 真美 山之内志郎	大澤 正己 下條 信行 長井 敷秋 野口光比古 行時 志郎

(敬称略・五十音順)

展示関係者

赤星 敏美	井上妙一朗	上田奈保美	大政 哲志	岡田 敏彦
岡野 哲	戒田 光一	國田 竹孝	坂井 清美	高市 長
谷若 優郎	中村 文雄	西村 博明	二宮 和広	早瀬 辰郎
平井 屯	吉岡 義徳			

出作遺跡関連文献

- ① 相田則美「出作遺跡発掘調査記録」出作遺跡発掘調査会 1977。
- ② 相田則美「出作遺跡発掘調査概要」出作遺跡発掘調査会 1978。
- ③ 相田則美「出作遺跡調査報告」「懇報まさき第61号」松前町中央公民館 1979.6.
- ④ 相田則美「出作遺跡」「松前町誌」松前町 1979.11.
- ⑤ 森 光晴「古墳文化の発達と社会の充実」「愛媛県史 原始・古代I」愛媛県 1982.
- ⑥ 相田則美「古墳中期の祭祀遺跡—愛媛県出作遺跡—」「李利考古学 第2号 神々と仏を考古学する」猪山閣 1983.
- ⑦ 西田 栄「出作遺跡」「愛媛県史 資料編 考古」愛媛県 1986.1.
- ⑧ 相田則美「松前町出作遺跡の調査」「松前史談 第2号」松前町松前史講会 1986.3.
- ⑨ 相田則美「松前町の埋蔵文化財」「松前史談 第5号」松前町松前史講会 1989.
- ⑩ 置田重昭「川の神まつり」「古墳時代の研究 第3巻 生活と祭祀」燧山閣 1991.
- ⑪ 相田則美ほか「出作遺跡I」「松前町教育委員会 1993.
- ⑫ 梶山林継「愛媛県・『出作遺跡I』紹介」「祭祀考古学 翁羽号」祭祀考古学会 1994.

78 展示会準備風景



撮影：大政

79 松山市客谷1号墳の子持ち勾玉



撮影：大西

特別展図録

出作遺跡とそのマツリ
-古墳時代松山平野の祭祀と政治-

1994年11月20日～12月4日

発行 愛媛県松前町教育委員会
〒791-31 伊予郡松前町大字筒井633
TEL (0899)85-1313 FAX (0899)85-0288

発行日 1994年11月20日

印刷 佐川印刷株式会社
〒791 松山市問屋町6-21
TEL (0899)25-7471㈹ FAX (0899)25-7464

